

2007年6月、韓国で初めてのSRI国際会議が開催され、当レポートでもその様子をご紹介しました。それから1年以上が経過し、今年9月その韓国からSRIに関する興味深い資料が送られてきました。

企業のサステナビリティ評価やコンサルタントを行っているスイスと韓国の合弁会社が、韓国証券取引所に上場している大・中規模クラスの350社についての年度評価を実施しました。その中で、同社がサステナブルであると評価した先進企業でポートフォリオを組成し、そのパフォーマンスをベンチマークとしている韓国総合株価指数（KOSPI：Korea Composite Stock Price Index）と比較したところ、2002年1月時点を基準とした2008年7月時点のパフォーマンスは、KOSPIに対し約220%、2007年1月を基準にした場合で約110%も上回っています。<sup>1</sup>

国民年金管理公団のイニシアチブで始まった韓国のSRIですが、いわゆるESG（Environment, Social, Governance）に関する報告書を発行している企業数も、ESGに関連するファンド数も年々増えており、韓国企業が持続可能な経営（Sustainable Management）を重要な要素とみなしている事実をあらわしているといえます。

韓国のCSRをめぐる課題には、もちろん人的資本の問題も含まれます。韓国も少子高齢化が急速に進んでおり、その速度は日本よりはやく、2042年以降は韓国の人口減少率が日本を抜くことが予測されています<sup>2</sup>。企業も両立支援策として、保育インフラの拡充、産前産後休暇や育児休業取得の活性化、職場復帰支援などに取り組んでいるそうです。前述のサステナビリティ評価でも、個々の従業員のニーズや家族の状況に合わせた柔軟な働き方に対する施策や育児支援策などが評価項目に含まれています。

日本は韓国より早く人口減少が始まっています。日本企業のファミリー・フレンドリーへの取り組みや経験が、今後少子化を迎える国々のモデルケースとなっていくことを望むとともに、これらの取り組みが企業だけでなく国のサステナビリティにもつながるものと期待します。

<sup>1</sup> Press Release - September 2008, SolAbility

<sup>2</sup> 高安雄一「韓国における少子化進展の要因と少子化対策」環日本海経済研究所、2008